道頓堀五座

最寄駅：　オオサカメトロ 各線 なんば駅・日本橋駅
近鉄電車 大阪難波駅・日本橋駅 / 阪神電車 大阪難波駅 / 南海電車 なんば駅

江戸以前　明治　大正　昭和　平成　令和

道頓堀商店会（平成後期）

『なにわのブロードウエイ』道頓堀の芝居文化

開削後の道頓堀には大阪中の芝居小屋が集められ、この地域は芝居町として発展しました。「角座」、「浪花座」、「中座」、「朝日座」、「弁天座」の「道頓堀五座」はその代表的な劇場で、長らく道頓堀は五座とともに日本最大の劇場街としてにぎわいました。

平成11(1999)年、中座の閉館を最後に「五座」の劇場は姿を消しましたが、今でも松竹座ほかいくつもの劇場で上方の演芸文化を発信するなど、多くの劇場でにぎわっていた道頓堀の文化機能を今でも担い続けています。

道頓堀角芝居（浪花座）
大阪市立図書館 所蔵

現在

● 道頓堀ミュージアム並木座

江戸時代当時の芝居小屋の雰囲気を再現。五座の文化を紹介しています。

平成

● 食満南北（けまなんぼく）の句碑

明治から昭和に活躍した歌舞伎作者、作家食満南北（けまなんぼく）自筆の句碑が、相合橋北詰にあります。

平成

● 竹本座跡の碑

江戸時代、竹本義太夫（たけもとぎだゆう）が興行した人形浄瑠璃の劇場「竹本座」跡を示す碑が、道頓堀の戎橋付近にあります。

昭和

● 中座前の風景

寛文元(1661)年に中座落成。名代は塩屋久郎右衛門。弟の劇場と並んで上方芸能を支えました。
<昭和 40(1965) 年>

明治

● 道頓堀五座のひとつ「角座」

角座の名前は「太左衛門橋」を渡ってすぐの角地にあったため「角の芝居」と呼ばれていたことが由来となっています。
<明治 40(1907) 年頃>

江戸

● 道頓堀芝居小屋図絵

「摂津名所図会」に記された道頓堀芝居小屋風景。
竹原春朝斎 画
<寛政 8(1796) 年発刊>

道頓堀五座を中心に、芝居小屋でにぎわった街並み

「摂津名所図会」より

大阪市中央区役所
中央区魅力発信／ いま むかし にぎわいパネル

ほかにも区内の情報を掲載した「わがまちガイドナビ」をご覧いただけます